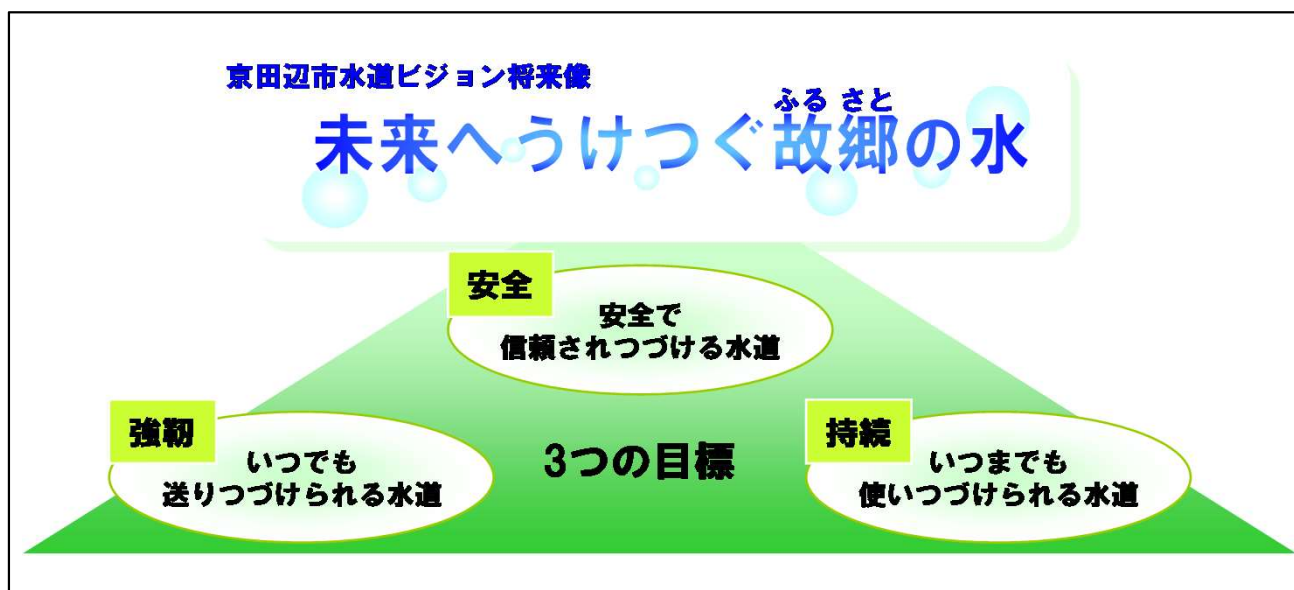


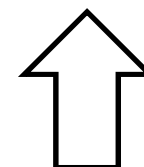
# 京田辺市水道ビジョンに基づく指標の公表（業務指標等）

【令和2～4年度】

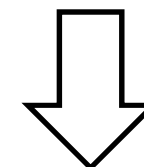
業務指標とは、水道サービスを定量的に評価する指標として、平成17年に「水道ガイドライン」（日本水道協会）で定められた137個の指標からスタートし、平成28年には水道関連法規の改正により指標の見直しが行われました。そのような中、令和4年度に一部改正した、京田辺市水道ビジョンでは、この新旧業務指標から20項目を取り上げ、独自で定めた1項目を合わせて、21項目を公表します。



指標の良否:



高い方がいい



低い方がいい

京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標11年度	コメント
安心	1104	水質基準不適合率	%	↓	水質基準不適合回数/ 全検査回数×100	0	0	0	0	定期の水質検査では水質基準不適合回数は0回でした。
	A202	給水栓水質検査 (毎日) 箇所密度	箇所/ 100 km <sup>2</sup>	↑	水質検査採水箇所数/ 給水区域面積×100	87.5	87.5	87.5	95.2以上	配水系統毎に14箇所毎日検査を行っています。この値は、水質の安全確保に適切な値と考えています。
強靱	1002	水源余裕率	%	↑↓	[(確保している水源水量/ 一日最大配水量)-1]×100	5.0	10.9	12.8	13.1	水源水量は、井戸の老朽化等により目詰まりが進行したため、水源余裕率は低下しました。今後も定期的に井戸の改修や掘替等を実施し、適正な揚水量の確保に努めます。
	B602	浄水施設耐震率	%	↑	耐震対策の施されている 浄水施設能力/全浄水施設 能力×100	78.5	78.5	80.1	100	基幹施設である新浄水場を含め耐震補強工事が完了したことにより、耐震化率が向上しました。今後も引き続き、耐震化に努めます。
	B603	ポンプ所耐震施設率	%	↑	耐震対策の施されている ポンプ所能力/ 全ポンプ所能力×100	58.1	58.6	58.6	100	今後、計画的にポンプ所の耐震化工事に着手します。
	B604	配水池耐震施設率	%	↑	耐震対策の施されている 配水池容量/配水池総容量 ×100	53.4	54.5	55.2	100	今後も引き続き耐震化に努めます。
	B605	管路の耐震管率	%	↑	耐震管延長/ 管路総延長×100	17.6	18.2	18.7	23.8	耐震管延長・管路総延長ともに増加しています。老朽管の更新工事や新設工事において、耐震管を採用することにより耐震化率の向上を図ります。

京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標11年度	コメント
強靱	B606-2	基幹管路の耐震適合率	%	↑	基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長/ 基幹管路総延長×100	43.5	45.9	47.4	73.3	平成28年度に管路の耐震性適合調査及び基幹管路耐震化計画を策定し、管路更新の優先順位を付けることにより、耐震化を進めます。
	—	緊急遮断弁設置済み配水池数	箇所	↑	緊急遮断弁設置済み配水池数	3	3	3	3	平成25年度に市北部の給水拠点として、松井ヶ丘配水池に緊急遮断弁を設置しました。
	B613	車載用の給水タンク保有度	m <sup>3</sup> /千人	↑	車載用給水タンクの総容積/ 給水人口×1000	0.392	0.390	0.386	0.370	給水人口が増加していることから、数値が下がりました。
持続	B105	施設最大稼働率	%	↑↓	一日最大給水量/ 一日配水能力×100	95.3	90.2	88.6	88.4	一日給水能力が増加したため、施設最大稼働率は減少しました。今後も定期的に井戸の改修や掘替等を実施し、適正な揚水量の確保に努めます。
	B116	普及率	%	↑	給水人口/給水区域内人口×100	99.5	99.5	99.6	100	給水人口及び給水区域内人口は、増加傾向にあり、普及率は、高い水準にあります。
	B205	幹線管路の事故割合	件/100km	↓	幹線管路の事故件数/ 幹線管路延長×100	0	0	0	0	幹線管路の事故割合は、0件です。
	C102	経常収支比率	%	↑	(営業収益+営業外収益)/ (営業費用+営業外費用)×100	100.7	100.8	101.5	100.0以上	限られた財源を有効に活用するため、経費の節減や効率化を徹底し、経営の安定化・健全化を図ってきました。

## 京田辺市水道ビジョンに基づく目標達成度把握のための指標一覧表（業務指標等）

別紙

目標	指標番号	指標名	単位	指標の良否	計算式	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標11年度	コメント
持続	C113	料金回収率	%	↑	供給単価/給水原価×100	82.0	82.5	84.2	100.0以上	引き続き、経費節減等を行い、上水道料金体系等について検討を行います。
	C126	料金収納率	%	↑	料金納入額/調停額×100	98.2	98.3	98.1	98.3	今後も継続して口座振替への切り替えを進めるとともに、負担の公平性を確保するため、滞納整理等未納料金の回収に努めます。
	C201	職員資格取得度	件/人	↑	職員が取得している法定資格数/全職員数	1.59	1.71	1.77	2.00	日本水道協会や京都府営水道等が主催する各種勉強会、研修会に参加し、次世代への技術継承を図ります。
	C202	外部研修時間	時間	↑	職員が外部研修を受けた時間・人数/全職員数	5.8	5.2	1.0	18.3	令和2年度からは、コロナ禍により職員の外部研修の受講が減少したが、職員は、企業を支える3本柱（人材、資産、資金）の一つであることから、今後も人材育成を重視し、各関係機関が開催する研修会へ積極的に参加します。
	C204	技術職員率 *	%	↑	技術職員総数/全職員数×100	59.4	61.3	63.3	62.1	今後は、老朽施設や管路の更新・耐震化が増える中で、土木系職員や専門技術者の確保に努めています。
	B301	配水量1m <sup>3</sup> 当たりの電力消費量	kWh/m <sup>3</sup>	↓	総電力量/年間配水量	0.80	0.76	0.74	0.792	KES環境マネジメント活動により省エネルギー化に努めます。施設更新時には省エネ機器の採用により一層の電力使用量の削減を図ります。
	B306	建設副産物のリサイクル率	%	↑	リサイクルされた建設副産物/建設副産物排出量×100	90.2	90.2	87.6	90.0	建設副産物は引き続き、再資源化施設への搬入を優先します。

注釈：技術職員率において、技術職員総数は、技術、事務を問わず水道施設の維持管理等に携わっている職員数を示す。